

教育研究業績書

2023年 5月 1日

氏名 梶井祥子

研究分野	研究内容のキーワード
1. 現代社会と人間関係基盤	1) 現代社会を特徴づける「人と人のかかわりのあり方 (=ヒューマンウエア、ソーシャル・キャピタル)」に関する調査研究。 2) 社会基盤としての家族の変容について、構造・意識・制度および家族内の関係性という視点から調査研究。 3) ファミリア・アイデンティティを分析ツールとして使用し、親の離婚を経験した子どもの意識変容を調査分析。 4) 親の離婚を経験した子どもが、周囲との社会関係をどのように調整しているかを調査分析。 5) 家族におけるジェンダー秩序の変化について考察 6) 地域の子育て支援活動が新たな公共性の形成やまちづくりにどのように影響しているのかを調査研究
2. 地域社会と若者の自立支援	1) 雇用の流動化が進行するなかで、地域の若者支援施策が地域再生とどのように関わっているのかを調査研究。 2) 地域のソーシャル・キャピタルの潜在力と持続可能性についての調査研究。 3) 札幌市若者自立支援センターと連動したユース・コミュニティ・ワークに関する調査研究。
3. ヒューマン・コミュニケーション育成教育	1) 現代社会に特徴的なコミュニケーション環境の研究と他者と関わるためのヒューマン・スキル教授法研究。 2) 汎用能力を育成するための教授法研究。

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 1) 北海道大学大学院 (公共政策学教育部) 「ジェンダー政策論」における『インプリケーション発見演習』の展開とリサーチペーパーへの指導	平成21年10月 ～平成23年3月	上級行政職を目指す大学院生および現役公務員や医師、ジャーナリストなど多様な履修者から構成される大学院演習授業の特殊性を活かし、日本の公共政策、とりわけ家族、雇用、医療、福祉、教育、税・年金制度に関わる様々な政策について、ジェンダーを分析概念として捉えなおしていくことを目指した。毎回、履修学生自身の関心領域や専門分野を基点とした問題提起のペーパーを作成させ、それを報告素材としてディスカッション形式で演習を行う。その過程で制度や政策に潜在しているジェンダー・バイアスを掘り起こしていく手法を『インプリケーション発見演習』と名付けて実践した。また、院生が執筆するリサーチペーパー (修士論文) の調査研究を進めるなかで、ジェンダー分析の視点をどのように取り込むことが有効であるかについて指導した。
2) 札幌大谷大学 (社会学部) 「社会生活と人間関係」の学生教育指導	平成24年4月～	初年次導入教育科目として、大学で体系的に学ぶことの意味を理解することが目的である。新たに出会う「社会学」の方法論を修得し、社会学理論を学ぶ手がかりと2年次からの実証的調査の意味を学んでいく。毎回の講義では、社会学とは何かを知るために、教員独自のレジュメを資料として配布した。また、専門理論への導入としてサブテキストを自宅学習のなかで読みこなし、毎回のレポート提出を積み上げた。社会の出来事をリアルタイムにトピックスとして取り上げ、身近な社会現象を理論づけることによって知的理解を促すよう授業展開を行った。ビデオなども利用し、学びと生活世界の「つなぎ」を意識するように仕掛けた。少人数教育の利点を活かし、個別的な対応を取り入れ、毎回のレポート返却による対話も実践した。

事 項	年月日	概 要
3) 札幌大谷大学(社会学部)「基礎演習」の学生教育指導	平成24年4月～	初年次導入教育として、日本語の表現力の習得を目的としたゼミナール展開を実践している。テキストの輪読、レジュメづくり、報告発表を繰り返すとともに、毎回、日本語の語彙に関する確認問題と演習問題によって自らの学習成果を認識することが可能となった。学生自らがディスカッションのテーマを探してくるなど、ゼミならではの議論を通して学びの動機づけにも役立っている。
2 作成した教科書, 教材 1) 『社会生活と人間関係－自分の人生をデザインするために』 (別途掲載)	平成20年3月 64頁	北海道武蔵女子短期大学(共著) 必修科目「社会生活と人間関係」テキスト 社会人基礎力を養成し、さらに時代認識力と乗り越え力を高めるための技法を発展的に修得することを目指した。社会学的思考力と実務能力の双方を養成することで、バランス感覚に優れたヒューマン・スキルの修得を実践的に身に付けられるように工夫された構成となっている。「人間関係はなぜ難しいのか」「自分自身のマネジメント」などを執筆。 (共著者) 梶井祥子、和田佳子
2) 『ほっかいどう学－現在を見つめ、過去を知り、未来のあり方を考える－』 (別途掲載)	平成20年3月 82頁	財団法人北海道生涯学習協会(共著) 道民カレッジテキスト 第7章「家族ってなあに－子育てママがマチをつくる」 道内3ヵ所の市民による子育て支援拠点を訪問調査し、その成果を基に、現在の子育て期の母親が抱える課題を提示するとともに、社会的支援の実践事例を紹介している。道内でも先駆的かつユニークな子育て支援活動を取り上げることで、子育てに対する新たな社会的支援の必要性を示唆している。また、市民が主体的に始めた子育て支援活動から、地域の活性化やまちづくり、行政との協働という視点への発展的成果が確認されたことも意義深い。 (共著者) 木村純、西村宣彦、木原稔、本田優子、石川秀也、三浦洋、梶井祥子、他3名
3) 『私の将来手帳－学び続けるために』 (別途掲載)	平成22年4月	(執筆担当部分) 基礎ゼミナール用テキスト 第1、2章 「大学でどのように学ぶのか」、「将来に続く学び」 基礎ゼミナールのテキストとして活用するとともに、“学びのポートフォリオ”として就職活動や大学卒業後の生涯学習の手引きになことまでを視野に入れて構成している。入学直後の学生アンケート調査の結果を分析し、初年次に必要な学ぶための方法論についてわかりやすく論じている。また、生涯に亘って課題発見力を発揮し、キャリアと学びの接合を図っていくことの意義を論じている。 (共著者) 和田佳子、梶井祥子
4) 『女性と社会－混迷の時代を生き抜くために』 (別途掲載)	平成23年3月 68頁	(執筆担当部分) 生涯教養系科目「女性と社会」テキスト 第1章「戦後日本の労働政策と雇用環境の変化」、第2章「リスクとは何か－主体的にキャリアを選択する」を執筆。社会経済状況の変動と政策との関連を理解し、流動性の高い時代のなかでの自分の位置づけについて考えさせる。時代認識を持ち、リスクを乗り越え、主体的にキャリアを選び取るとはどういうことなのか。変化のなかで流されない自分のつかみ方について、時代のキーワードとともに考えを深めていく。 (共著者) 和田佳子、梶井祥子
5) 『アンビシャス 社会学』 (別途掲載)	平成26年5月	(執筆担当部分) 「社会学」テキスト 第13章「地域社会とソーシャル・キャピタル」 現代的な課題への手がかりとして政策的な観点からも注目されているソーシャル・キャピタルという概念について、わかりやすく解説するとともに、そのアイディアの意義についても深く考察している。最新の事例研究を提示し、学生が身近な課題に取り組むための回路を示した。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) コーディネーター	平成21年8月	主催 生涯教育学会北海道支部 会場 常呂少年自然の家 演題 「オホーツクの社会教育」 内容 市町村の統廃合によって、地域に根ざしていた社会教育活動がどのように変化したのか。現場からの事例報告をもとに、シンポジウムを行った。
2) シンポジウム登壇者(シンポジュスト)	平成22年1月	主催 札幌大学経営学部附属産業経営研究所 会場 北海道神宮参集殿 演題 「人と地域のつながりを考える」 内容 都市化の進行によって、人と人とのつながり、人と地域のつながりが希薄化していると指摘されるが、実態はどのようなものであるのか。つながりのあり方が変化したのであれば、その変化に対応した作法が必要である。時代の要請に対応したコミュニティ文化とは何か、について提言した。
3) 講演講師	平成22年2月	主催 江別生涯学習インストラクターの会 会場 野幌公民館 演題 「家族の絆を地域で支援するために」 内容 都市化の進行とともに希薄化したと言われる人間関係を、コミュニティレベルで解決するための指針について提言した。
4) 講演講師	平成22年8月	主催 岩見沢教育委員会ほか 会場 岩見沢文化ホール 演題 心をつなぐ言葉ー現代の親子関係の課題 内容 現代の親子関係の課題を時代状況と照応させながら読み解き、必要なコミュニケーションのあり方について心理学・社会学の知見を題材に提示した。
5) 講演講師	平成22年10月	主催 北海道立女性プラザ 会場 札幌市かでの2・7 演題 女性のための教養講座女性大学「家族の絆～喪失から再生、そして新生～」 内容 戦後家族の変容と多様化を辿りながら、社会経済状況と伴走してきた家族のあり方を照射する。家族規範の揺らぎの背景と現代家族が抱える課題の所在について考察し、新たな家族の可能性と地域社会の関わりの必要性を論じた。
6) 講演講師	平成22年11月	主催 札幌市手稲区 会場 手稲区民センター 演題 「DVの基本的理解と支援の課題」 内容 DVを理解するための基礎知識と、被害者支援の重要性および2次被害防止のための課題について提言した。
7) 講演講師	平成22年12月	主催 千歳市女性会議 会場 千歳市文化ホール 演題 「家族の絆・地域の絆」 内容 家族の絆は家族だけでは守りきれないという現代社会の実態を、事例や事件検証を織り交ぜて提示し、理解を深めた。

事 項	年月日	概 要
8) 講演講師	平成23年8月	主催 室蘭市教育委員会 会場 胆振地方男女平等参画センター 演題 「多様化する家族と子ども」 内容 90年代以降、家族のありかたが多様化を極めていように論じられることが多いが、実態はどのようなものであるのか。最新の調査データから実証的に読み解き、家族像への思い込みについて検証した。
9) コーディネーター	平成23年10月	主催 (財) 子ども未来財団 会場 北海道大学 演題 地域子育て支援拠点事業について 内容 子育て支援事業の足跡を振り返り、その意義について検討した。さらに、研修事業の意義と成果について総括した。
10) 講演講師	平成23年10月	主催 中標津町全町内連合 会場 中標津町総合文化会館 演題 地域とともに子どもを育てる 内容 最新の家族社会学の知見を紹介しながら、親子関係の変容について振り返り、子ども・若者理解への手がかりを示唆した。
11) コーディネーター	平成23年11月	主催 日本生涯教育学会 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 演題 部会テーマ「地域活性化と社会教育」 内容 第32回学会研究報告部会においてコーディネーターとして総括を務めた。
12) 講演講師	平成23年11月	主催 (財) 北海道女性協会 会場 帯広市とかちプラザ 演題 家族の心をつなぐー時代の変化を乗り越えて 内容 家族を理解する手掛かりは何か。世代間における意識ギャップを乗り越え、未来へ向かって家族・地域につながる意義について再考した。
13) パネリスト	平成23年11月	主催 北海道開発協会 開発調査総合研究所 会場 北海道開発協会ホール 演題 「これからの選択 ソーシャル・キャピタルー地域に住むプライド」出版記念フォーラム 内容 ソーシャル・キャピタル研究が地域活性化に与える意義について、実証的に報告した。
14) シンポジウム・コーディネーター	平成24年3月	主催 北海道 会場 京王プラザホテル札幌 演題 スウェーデンにおける男女平等政策 内容 前日本大使のカイ・レイニウス夫妻を招聘し、スウェーデン社会の男女平等政策を振り返りながら、日本社会の抱える課題について議論を深めた。
15) 講演講師	平成24年3月	主催 士幌町教育委員会 会場 士幌町文化センター 演題 現代家族の抱える課題と将来像 内容 厳しい雇用環境のなかで結婚できない若者が増えている現状と、家族が弱体化しつつある状況について実証的に解説をした。家族支援の必要性と地域との関わりについても提言した。
16) シンポジウム・コーディネーター	平成24年6月25日	主催 札幌市男女共同参画センター 会場 札幌市男女共同参画センター大研修室 テーマ 思春期の子どもと向き合う大人のためのシンポジウム～ありのままの自分と他者を大切にす～

事 項	年月日	概 要
17) 講演講師	平成24年6月26日	主催 北海道立女性プラザ 会場 かでる27 演題 男女共同参画週間講演会「これからの男女平等社会～子どもたちの未来を見つめて～」 内容 男女共同参画社会基本法が制定されて以降の日本社会の変容と、社会での男女共同参画の進展および女性の貧困化や労働環境の変化、働く女性のためのワークライフバランスなどについて課題と取組みを提示した。
18) フォーラム・報告者	平成24年6月27日	主催 北海道 会場 北海道庁赤れんが庁舎 演題 北海道・慶尚道女性政策フォーラム「北海道の女性政策の取組み」 内容 韓国の女性団体と、これまでの女性運動の振り返りや、それぞれの国内事情について意見交換をした。
19) 講演講師	平成24年8月23日	主催 室蘭市社会教育委員会 会場 胆振地方男女共同参画センター 演題 今どきの結婚観
20) 講演講師	平成24年10月10日	主催 美深町教育委員会 会場 美深町文化会館COM100小ホール 演題 支え合う豊かな地域社会のために～子どもたちの未来を見つめて～
21) 講演講師	平成24年11月4日	主催 北海道教育委員会 会場 道立教育研究所（江別市） 演題 未来への投資～家庭教育支援における企業の役割
22) 講演講師	平成25年2月26日	主催 北海道教育庁後志教育局 会場 後志合同庁舎 演題 家庭教育サポート企業の役割
23) 講演講師	平成25年10月4日	主催 日本技術士学会 会場 ホテルロイトン札幌 演題 女性の活躍を広げるために 内容 職場において少数派になりがちな女性技術者が、今後どのような課題を乗り越えてキャリア・アップできるのか。労働環境、他者との関係、ワークライフバランスの視点から課題を掘り下げた。
24) 講演講師	平成25年10月27日	主催 建装工業株式会社 会場 京王プラザホテル（札幌） 演題 微笑みあうマンションライフ～高齢者・若者世代の共生
25) 講演講師	平成26年2月6日	主催 札幌市中央区 会場 札幌市中央保健センター 演題 つながよう♪世代間の輪～世代間で支える子育ての大切さ
26) 講演講師	平成26年3月4日	主催 浦幌町 会場 浦幌町教育文化センター 演題 これからの男女平等社会～子どもたちの未来を見つめて
27) パネルディスカッション・パネル	平成26年4月19日	主催 ゾンタクラブ 会場 札幌パークホテル 演題 女性の活躍で未来を拓く～キャリアを積んで見えてきたもの

事 項	年月日	概 要
28) 講演講師	平成26年7月22日	主催 苫前町 会場 苫前町公民館 演題 地域とともに子どもを育む
29) シンポジウム・報告者	平成26年8月9日	主催 北海道アートボランティアネットワーク 会場 札幌市資料館 報告 ボランティアと地域のか
30) 講演講師	平成26年8月25日	主催 NPO法人しりべつリバーネット 会場 ニセコ町 演題 次世代育成と社会教育
31) コーディネーター	平成26年10月17日	主催 札幌市 会場 札幌コンベンションセンター 演題 女性が育てたDV防止法のこれまでとこれから
32) 講演講師	平成27年2月24日	主催 シアターキノ 会場 札幌市シアターキノ 演題 「そして父になる」から社会と家族を考える
33) 講演講師	平成27年2月27日	主催 東京都大田区社会教育委員会 会場 東京都大田区生涯学習センター 演題 戦後70年—家族の個人化
34) 講演講師	平成27年3月17日	主催 BPW札幌 会場 札幌グランドホテル 演題 個人化する社会—仕事、家族そして老後
35) 講演講師	平成27年10月23日	主催 北海道 会場 とかちプラザ 演題 人口減少と地方創生を考える
36) 講演講師	平成27年10月30日	主催 北海道 会場 岩見沢市民会館まなみーる 演題 人口減少社会とどう向き合うか
37) ラジオ解説	平成27年11月11日、18日、25日、12月2日、9日	主催 北海道 会場 STVラジオ 演題 人口減少と北海道
38) 講演講師	平成27年11月25日	主催 北区商店街連絡協議会 会場 札幌サンプラザ 演題 人が育つまちづくり～何が若者を惹きつけるのか～
39) 講演講師	平成28年2月16日	主催 北海道商店街振興組合連合会 会場 札幌サンプラザ 演題 若者を惹きつける地域コミュニティ
40) フォーラム登壇者	平成28年5月4日	主催 日本青年会議所北海道地区協議会 会場 札幌市教育文化会館 演題 北海道からムーブメントを巻き起こせ
41) 講演講師	平成28年5月31日	主催 赤平市 会場 交流センターみらい 演題 地域の未来をつくる～子育て支援の潜在力～
42) 講演講師	平成29年2月11日	主催 東京大志学園 会場 クラーク札幌国際高等学校白石校 演題 違いを認め合いつながる社会へ—変化の時代を乗り越える家族

事 項	年月日	概 要
43) 講演講師	平成29年7月18日	主催 札幌大谷高校 会場 札幌大谷高校 演題 いじめについて考えてみるー社会学からのアプローチ
44) 講演講師	平成29年7月27日	主催 北海道教育庁後志教育局 会場 古平家族旅行村 演題 まちづくりのための社会学
45) シンポジウム登壇者	平成29年11月17日	主催 札幌市 会場 札幌市教育文化会館 演題 児童虐待を考えるシンポジウム
46) 講演講師	平成30年2月17日	主催 後志振興局教育委員会・倶知安高校 会場 倶知安高校 演題 地域とつながる高等学校の姿
47) 講演講師	平成30年10月27日	主催 家庭教育相談ボランティアグループ 会場 かでる2・7 演題 人口減少時代の子育て～たくましく、しなやかに育ち合う～
48) 講演講師	平成30年11月13日	主催 札幌市 会場 教育文化会館 演題 虐待ゼロを目指して～『SOS』が聞こえるまちづくり～
49) 講演講師	2019年1月29日	主催 千歳市 会場 千歳市総合福祉センター 演題 人が育つまちづくり～多様な担い手が支え合う地域社会～
50) 講演講師	2019年2月5日	主催 札幌市東区 会場 東区民センター 演題 地域で見守る親子の笑顔～親子を地域で支えるために～
51) トークセッション登壇者	2019年5月19日	主催 札幌アートボランティア・ネットワーク 会場 札幌市民交流プラザSCARTSコート 演題 まち・生活・音楽を語る
52) 講演講師	2020年10月18日	主催 北海道雄武町 会場 雄武町民センター 演題 共生社会を生きるー＜信頼＞の基盤を育むために
53) 研修講師	2020年12月8日	主催 家庭裁判所 会場 札幌市家庭裁判所 演題 親の離婚後の子どもたち
54) 研修講師	2021年3月5日	主催 札幌市女性活動協会 会場 オンライン 演題 社会の変化と家族・家庭の変化
55) シンポジウム登壇者	2021年3月11日	主催 札幌市 会場 札幌パークプレミアムホテル 演題 今後のさっぽろを考えるシンポジウム
56) 北海道社会学会大会シンポジウム主催	2021年6月18日	主催 北海道社会学会 会場 オンライン シンポジウム趣旨説明 「在留外国人と共生社会」
57) 公開座談会 座長	2022年3月15日	主催 北海道開発協会 会場 かでる2・7 テーマ 今後の外国人材受入れ・共生に関する取組みについて

事 項	年月日	概 要
58) 講演講師	2022年10月31日	主催 北海道行政計画学会 会場 紋別市市民会館大ホール 演題 外国人も暮らしやすい地域社会の構築に向けて
59) シンポジウム・コメンテーター	2022年10月31日	主催 北海道行政計画学会 会場 紋別市市民会館大ホール テーマ 共生社会推進の課題
60) 講演講師	2023年1月27日	主催 根室管内社会教育委員連絡協議会 会場 オンライン 演題 多文化共生社会と社会教育
5 その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事 項	年月日	概 要
1 資格, 免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		

事 項	年月日	概 要
4 その他		
1) 北海道武蔵女子短期大学学生相談室長	平成18年4月～平成22年3月	
2) 北海道武蔵女子短期大学就職委員長	平成22年4月～平成24年3月	
3) 札幌大谷大学社会学部長	平成28年4月～平成30年3月	
4) 札幌大谷大学図書館長・図書委員会委員長	平成30年4月～2021年3月	

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 社会生活と人間関係ー自分の人生をデザインするために	共著	平成20年3月	北海道武蔵女子短期大学 64頁	(担当部分概要) 第1～6章『人間関係』はなぜ難しいのかー時代が要請するヒューマン・スキルとは』 pp. 1～32 社会人基礎力を養成し、さらに時代認識力と乗り越え力を高めるための技法を発展的に修得することを目指した。社会学的思考力と実務能力の双方を養成することで、バランス感覚に優れたヒューマン・スキルの修得を実践的に身に付けられるように工夫された構成となっている。「人間関係はなぜ難しいのか」「自分自身のマネジメント」などを執筆。 (共著者) 梶井祥子、和田佳子

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 2. ほっかいどう学—現在を見つめ、過去を知り、未来のあり方を考える—	共著	平成20年3月	(財)北海道生涯学習協会 82頁	(担当部分概要) 第7章「家族ってなあに—子育てママがマチをつくる」 pp. 50～57 道内3カ所の市民による子育て支援拠点を訪問調査し、その成果を基に、現在の子育て期の母親が抱える課題を提示するとともに、社会的支援の実践事例を紹介している。道内でも先駆的かつユニークな子育て支援活動を取り上げることで、子育てに対する新たな社会的支援の必要性を示唆している。また、市民が主体的に始めた子育て支援活動から、地域の活性化やまちづくり、行政との協働という視点への発展的成果が確認されたことも意義深い。 (共著者) 木村純、西村宣彦、木原稔、本田優子、石川秀也、三浦洋、 <u>梶井祥子</u> 、他3名
3. 絆—喪失から再生、そして新生へ—	共著	平成20年12月	(財)大学コンソーシアム京都 205頁	(担当部分概要) 第2章 幼年期「“つながり”を育む喜び—家族が共有する記憶—」 pp. 31～56 人生のライフステージごとに「絆」のあり方を考察した著書で、幼児期の親子の絆の構築および地域と家族の関わりについて考察した。諸々の調査結果と心理学者や社会学者の言説を織り交ぜながら、家族社会学的な知見を紹介。また、多様化する家族形態のなかで家族支援はどのように可能であるのか、子どもに必要な乗り越え力はどのように養成されるのかについても考察している。 (共著者) 佐藤香代、 <u>梶井祥子</u> 、他6名
4. 私の将来手帳—学び続けるために—	共著	平成22年4月	北海道武蔵女子短期大学 64頁	(担当部分概要) 第1、2章 「大学でどのように学ぶのか」、「将来に続く学び」 pp. 1～30 基礎ゼミナールのテキストとして活用するとともに、“学びのポートフォリオ”として就職活動や大学卒業後の生涯学習の手引きになることまでを視野に入れて構成している。入学直後の学生アンケート調査の結果を分析し、初年次に必要な学ぶための方法論についてわかりやすく論じている。また、生涯に亘って課題発見力を発揮し、キャリアと学びの接合を図っていくことの意義を論じている。 (共著者) 和田佳子、 <u>梶井祥子</u>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(著書)</p> <p>5. 女性と社会－混迷の時代を生き抜くために</p>	共著	平成23年3月	北海道武蔵女子短期大学 68頁	<p>担当部分概要)</p> <p>第1章「戦後日本の労働政策と雇用環境の変化」、第2章「リスクとは何かー主体的にキャリアを選択する」 pp. 1～34</p> <p>社会経済状況の変動と政策との関連を理解し、流動性の高い時代のなかでの自分の位置づけについて考えさせる。時代認識を持ち、リスクを乗り越え、主体的にキャリアを選び取るとはどういうことなのか。変化のなかで流されない自分のつかみ方について、時代のキーワードとともに考えを深めていく構成になっている。</p> <p>(共著者) 梶井祥子、和田佳子</p>
<p>6. 「これからの選択 ソーシャル・キャピタルー地域に住むプライド」</p>	編著書	平成23年10月	(財) 北海道開発協会	<p>道内9か所で実施した調査データをもとに、各地域が持つ社会関係資本の特性を探り、住民の生活満足度や幸福感との関連性を考察した。「つながり」に投資する地域社会の事例を通して、ソーシャル・キャピタルの現代的意義と可能性について論じている。</p>
<p>7. 「アンビシャス 社会学」</p>	共著	平成26年5月	北海道大学出版会	<p>「第13章 地域社会とソーシャル・キャピタル」</p> <p>ソーシャル・キャピタルの基本概念をわかりやすく解説し、さらに地域社会における実践例を検討しながら、その潜在的な可能性について議論を提示している。</p>
<p>8. 「若者の『地域』志向とソーシャル・キャピタルー道内高校生1,755人の意識調査から」</p>	編著書	平成28年10月	ナカニシ出版	<p>「はじめに」</p> <p>「第1章人口減少社会に生きる若者」</p> <p>「若者と地域のつながり」に関するアンケート調査とヒアリングのデータから、高校生が持つ地域社会にとっての潜在力を分析・考察した。人口減少社会における地域創生のためのソーシャル・キャピタルとして高校生を捉え返した。</p>
<p>(学術論文)</p> <p>1. 家族意識の変容過程 - 親の離婚を経験した子どもの事例調査から</p>	単著	平成18年3月	北海道武蔵女子短期大学紀要 第38号 pp. 39～60	<p>親の離婚を経験した子どもたちへの質的調査を実施し、家族意識の変容過程について考察している。</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 2. 地域における公共性の再構築—市民力形成の結節点としての子育て支援活動	単著	平成20年3月	北海道武蔵女子短期大学紀要 第40号 pp. 101～123	道内の先駆的な子育て支援活動を実践している拠点5ヵ所の事例調査を行ない、市民活動の契機とインセンティブ、活動の持続可能性の条件について分析考察した。「新しい公共」とは具体的にどのようなかたちで実践されていくのか、そのプロセスのなかで市民セクターと行政セクターの協働はどのように機能したのか。ボランティアな市民を活動に巻き込むための仕掛けはどのようなものであったのか。調査からは、共通した条件と地域特性が抽出されている。
3. 子育てひろばの活動が充実・発展するために	単著	平成20年10月	(財)こども未来財団・NPO子育て広場連絡協議会「平成20年実践・研究事例報告」 pp. 12～18	子育て支援拠点としての「子育てひろば」の全国的な普及は目覚ましいが、地域に定着させ運営を順調に継承していくためには、さらなる協働の工夫が必要である。先駆的な実践事例を挙げながら、活動の発展に必要な要素を分析した。「学習する組織」としての工夫を組み込むことで、当事者たちがミッションを共有できること、多世代循環型の互酬組織として機能することが可能になることを抽出した。
4. 家族は何を期待されているのか—親の離婚を経験した子どもの事例調査から	単著	平成20年11月	日本生涯教育学会「第29回研究大会要旨集」 pp. 24～25	5年間に亘って実施した親の離婚を経験した子どもへの質的調査(半構造的インタビュー調査)の結果から、家族環境の変動を乗り越えた子どもたちの背景・要因について考察した。 また、子どもたち自身の将来の結婚観・家族観についての聞き取りから、親の離婚が子どもたちの家族意識の変容にどのような影響を及ぼしているのかについて分析した。男子は女子に較べて、親の離婚によって、伝統的で固定的な家族規範意識を持ちやすくなる傾向が見られた。女子は、自分自身の結婚について消極的になる傾向が見られた。調査結果から親の離婚が与える影響のジェンダー差が明らかになった。
5. 札幌市における包括的若者支援の試み—“札幌市青年施策のあり方検討委員会”の提言を事例として	単著	平成21年3月	北海道武蔵女子短期大学紀要 第41号 pp. 59～81	全国に先駆けて独自の青年施策を体系化した札幌市の事例から、行政が取り組むべき包括的な支援の必要性を示唆した。雇用の流動化、ニートなど課題を抱えた若者層の増加など、地域の持続可能性のためには若者支援は喫緊のアジェンダである。札幌市は既存の若者施設を再編し、時代のニーズに合わせて再編することで、包括的な若者支援の具現化した。そこには市民と行政の協働も織り込まれている。実現までのプロセスとユニークな仕組みを考察した。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 6. 「地域のつながり」をソーシャル・キャピタルへ変換するための要因分析	共著	平成21年3月	財団法人北海道開発協会開発調査総合研究所「ソーシャルキャピタル研究報告」186頁(共同研究につき本人担当部分抽出不可能)	北海道の地域活性化を図る資源としてソーシャル・キャピタルをどのように可視化し、資本化させるのか。2年間に亘って道内の様々な事例を収集し検証した。また、ソーシャル・キャピタルの地域特性を調査するための研究手法についても考察し、その実験的な具体化へ向けての方向性を提示した。 (共著者) 梶井祥子、藤田香久子、佐藤郁夫、草薙健
7. 官民の協働関係構築の事例調査と社会関係資本に関する研究—非営利的市民活動が持続的なコミュニティを創出するためのインセンティブ	共著	平成21年6月	北海道開発協会開発調査総合研究所「平成20年度助成研究論文集」pp. 69～84	(担当部分概要) 官民協働を試行している活動拠点6カ所の事例調査から、協働のプロセスと持続可能性について考察した。地域の社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)がどのような契機から顕在化して「資本化」するのか。行政との協働を志向するための双方のインセンティブは何か。協働はどのようにして持続可能か。協働の陥穽はどこにあるのか。市民セクターと行政セクターの両方にインタビュー調査をすることで、それぞれの立場について分析することが可能になった。 (共著者) 梶井祥子、和田佳子
8. 「協働」のインセンティブとジレンマ	単著	平成21年10月	(財)北海道開発協会・開発こうほうNo555 pp. 7～11	「協働」とコミュニティ再生の可能性を事例調査の結果から考察した。多様化・高度化する地域住民のニーズに応えるために「協働」は具体的にどのような効果をあげ得るのか。行政と市民の協働を実現するためのインセンティブは何であるのか。そこに隠された陥穽、ジレンマをどのように克服するべきか。調査結果から、持続可能な「協働」のための条件を提言した。
9. 『卒後3年目サロン』を中核とした在学生・卒業生への多元的支援	共著	平成22年3月	独立法人日本学生支援機構「大学教育・学生支援推進事業、学生支援プログラム事例研究」pp. 163～166	グローバル化の影響による社会経済状況の変動は、雇用環境の激変として特に若年層への打撃として現れている。教育の場から職業生活への移行をいかにスムーズに運ぶかは、高等教育機関のミッションとなりつつある。その使命を卒業後の若者にも広げ、「卒後3年目サロン」を中核として多元的な支援を目指すことを提言。生涯に亘るセキュア・ベース(安心基盤)として大学を位置づけた。 (共著者) 村岡ひとみ、和田佳子、梶井祥子

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 10. 今、“つながり”から生み出すもうひとつの地域社会～人口減少・少子高齢化の中の持続可能な地域運営～	共著	平成22年5月	(財)北海道開発協会・開発こうほうNo562 pp. 1～11 (共同研究につき本人担当部分抽出不可能)	ソーシャル・キャピタルをキーワードに、地域社会を担う人と人との関係性を探ることの意義について検証している。また、地域における雇用創出の可能性と若者を支える仕組みづくりについて提言している。また、ケイパビリティ、コモンズ、ソーシャル・キャピタルという視点から、北海道地域の活性化への政策的支援を考察した。 (共著者) 小磯修二、佐藤郁夫、梶井祥子
11. 地域の子育て支援拠点における「連携・協働」の実践事例研究	単著	平成22年12月	第9回全国子育てひろば実践交流セミナー実行委員会「実践事例・全国研修報告」 pp. 4～10	全国の子育て支援活動を基点とした「連携・協働」の実践事例から、新しい公共の担い手としての市民の醸成、持続可能なコミュニティ活動のあり方について考察した。全国で7000箇所まで普及した「子育て支援拠点」は、子育てという枠組みを超えた市民によるコミュニティ創出活動に発展している。その組織化のプロセスや自律のための政策について、実例の検証とともに議論している。
12. 地域の「再領域化」とソーシャル・キャピタル	単著	平成23年3月	北海道武蔵女子短期大学紀要 第43号 pp. 1～23	道内市町村の10地域を対象に実施した調査結果から、それぞれの地域におけるソーシャル・キャピタルの特性を可視化し、地域活性化へつなげるための効果的政策について考察した。住民の地域活動への参画度合い、愛着度、家族への親密度、住み続ける意志など、持続可能なコミュニティ創出に必要なメンタリティ(心性)の所在を分析し、将来展望について提言した。
13. 短大教育の職業的意義—汎用能力を高めるための教授法研究	共著	平成23年3月	北海道武蔵女子短期大学紀要 第43号 pp. 25～60 (共同研究につき本人担当部分抽出不可能)	短大教育における職業的意義(レリバンス)を具体化するために必要な教授法とは何か。学生からのアンケート調査と企業からのアンケート調査の結果を分析し、それぞれの意識のズレを明らかにしながら、その橋渡しの位置にある教育現場の役割、効果的な教授法について考察した。 (共著者) 和田佳子、梶井祥子
14. 家族へのまなざし—新しい家族とどう関わるのか	単著	平成23年3月	(財)北海道女性協会「平成22年度地域活動研究」 pp. 2～3	現代の家族が抱える課題について考察し、その背景を分析した。地域での家族支援を考える時、どのような構えが必要となるのか。家族に関わる最近の事件を検証しながら、寛容な意識の醸成と包摂的社会的創出について提言した。地域で寛容な人間関係を創出していくことの実践について、その効果を事例をもとに分析している。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 15. 北海道のソーシャル・キャピタルの可能性	共著	平成23年3月	(財)北海道開発協会「道内各地の人と地域のつながりに関する調査研究」378頁 (共同研究につき本人担当部分抽出不可能)	都市化の進行が及んでいない地域では、高齢化や過疎化に直面し人口減少ゆえの課題を抱えている。しかしマイナス面ばかりではなく地域ならではの人と人とのつながりなど、掘り起こされていないプラスの側面もある。人口規模の異なる地域10ヵ所の対象とした計量調査から、地域の強みとなりうる要素を抽出し、地域のウェルフェアを高める要因や地域に住み続けるためのインセンティブについて考察した。 (共著者) 梶井祥子(座長)、小林好宏、佐藤郁夫、藤田香久子、草苺健
16. これからの人と地域のつながり	共著	平成23年4月	(財)北海道開発協会・開発こうほうNo573 pp. 23~32 (共同研究につき本人担当部分抽出不可能)	北海道地域10ヵ所で実施した計量調査から、地域ごとの「つながりのあり方」のパターンを集合的に捕捉し、地域に潜在していた社会関係資本を可視化することができた。持続可能なコミュニティに必要なシビル・ミニアムの指標について考察するとともに、地域の生活満足度を高める要因や地域に住み続けるためのインセンティブについて分析した。 (共著者) 梶井祥子(座長)、小林好宏、佐藤郁夫、藤田香久子、草苺健
17. 循環型多世代共生社会の仕組みづくり	単著	平成23年4月	北海道地域総合研究 ((社)北海道地域総合研究所) 第1号 pp. 63~70	地域の人口減少をどのように克服して持続可能な循環型地域社会を創出することができるのか。道内地域調査のデータから、地域の間関係資源の特徴を分析し、地域に必要な重層的な「つながり」を創出するための仕掛けを提案している。新しい試みとして「ユース・コミュニティ・ワーク」の可能性についても事例を挙げて考察した。
18. 木戸功著『概念としての家族—家族社会学のニッチと構築主義』書評	単著	平成23年6月	北海道社会学会「現代社会学研究 VOL. 24」 pp. 115~118	若手家族社会学者である木戸功氏の最新著書をもとに、構築主義からの家族研究の可能性について論評した。
19. 家族の「多様化」と規範意識の変容	単著	平成25年3月	札幌大谷大学「社会学部論集第1号」pp. 261~289	離婚・再婚に関わる広範な調査を実施し、その結果分析から家族規範がどのような方向で変容しているのか、また固定化しているのかを論じた。
20. 高校生がつなぐ地域の未来	単著	平成29年2月	北海道開発協会「開発こうほう」2017年2月号	道内の高校生を対象とした地域意識調査の結果から、地方創生にとっての高校生の存在を考察した。
21. 若者の地域志向とソーシャル・キャピタル	共著	平成29年5月	北海道開発協会「開発こうほう」2017年5月号	地域社会におけるソーシャル・キャピタルの醸成と地元高校生が果たす役割について考察した。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 22. 高校生とともに<新しい地域のものがたり>を紡ぐ	単著	平成30年1月	北海道開発協会「開発こうほう」2018年1月号	三笠市と鹿追町へのヒアリング調査の結果をまとめ、地方自治体と高校の連携による地方創生のモデルを考察している。
23. 『スウェーデン・モデル』と家族規範の変容—家族の自律性はどのように支援されているのか—	単著	平成30年7月	名寄市立大学 『多世代の紐帯』としての祖父母世代—スウェーデンにおける離婚・再婚家庭に関する調査から	平成28、29年に実施したスウェーデンでの調査成果を基に、福祉制度の変化が家族関係に及ぼす影響について実証的に考察している。日本社会との比較を行い、示唆的提言をした。
24. 「離婚家族」というラベリングを超えて	単著	平成30年5月	教育と医学の会「教育と医学」 2019年6月号 No. 792, 慶應義塾大学出版会	親の離婚を経験した子どもの「育ち」について、これまでの実証研究とスウェーデンでの調査を踏まえて、課題と提言を行っている。
25. 金子勇著『ことわざ比較の文化社会学—日英仏の民衆知表現』書評	単著	2021年6月	北海道社会学会「現代社会学研究 VOL. 34」 pp. 87~91	社会学者金子勇氏が、3カ国のことわざ比較という手法で試みた文化社会学の著作の成果を読み解き論評した。
26. 外国人に「選ばれる北海道」に向けた新たな提言	共著	2023年3月	「開発こうほう」3月号	3年間の道内外国人労働者への調査の成果として、外国人との共生社会構築の条件を提言した。
(その他) (口頭発表) 1. 家族は何を期待されているのか—親の離婚を経験した子どもの事例調査から	単	平成20年11月	第29回日本生涯教育学会 (国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)	5年間に亘って実施した親の離婚を経験した子どもへの質的調査(半構造的インタビュー調査)の結果から、家族環境の変動を乗り越えた子どもたちの背景・要因について考察した。 また、子どもたち自身の将来の結婚観・家族観についての聞き取りから、親の離婚が子どもたちの家族意識の変容にどのような影響を及ぼしているのかについて分析した。男子は女子に較べて、親の離婚によって、伝統的で固定的な家族規範意識を持ちやすくなる傾向が見られた。女子は、自分自身の結婚について消極的になる傾向が見られた。調査結果から親の離婚が与える影響のジェンダー差が明らかになった。
2. 子育て支援と地域活性化インパクト	共同発表	平成23年12月	北海道開発協会第7回助成研究発表会 (北海道開発協会ホール)	道内5か所、道外1か所の先駆的な子育て支援を実践している地域を調査し、比較分析した結果を発表した。また成功例から、官民協働に資するための提言を行った。
3. 「地域への愛着とソーシャル・キャピタル」	単	平成26年11月14日	日本計画行政学会北海道支部研究会	道内高校生1700名の意識調査の結果について、愛着意識とソーシャルキャピタルという視点から分析した結果を報告した。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (口頭発表) 4. 若者の意識動向― 地元志向を促進する 因子は何か	単	平成30年3月12 日	北海道・過疎地域を考 える懇話会	過疎地域の現状と課題解決の方向 性を考えるために、若年層の意識動 向について実証的なデータを基に検 討した。
5. 親の離婚を経験した 子どもの家族意識― 家族の境界・親とは 誰か―	単	2019年10月20 日	日本離婚・再婚家族と子 ども研究会(招待報 告): 明治学院大学	親の離婚後の子どもの家族意識の 変容について実証事例を報告し、子 どもの成長段階に与える影響と最近 の共同親権についての議論の両義性 について提言した。
6. ひとり親への子育て 支援	単	2019年10月26 日	札幌大谷大学公開講座	ひとり親家庭に必要な支援につい て、地域社会の理解の醸成とそのた めに必要な寛容なコミュニケーション スキルについて解説した。
7. 共生社会の構築に向 けて	単	2021年3月15日	北海道開発協会開発総 合研究所主催 公開座 談会: かでる2・7	3年間に亘った「地方における外国 人材の受入れに関する調査研究」の 成果を報告し、道内の技能実習生の 課題と今後の「特定技能」在留者の 受入れ環境に必要な取組みについて 提言を行った。
(その他) (報告書) 1. 「人と地域のつながり に関するアンケート調 査・報告書」	共著	平成24年3月	開発調査総合研究所・ 北海道ソーシャルキャ ピタル研究会 (共同執筆のため頁の 抽出不可能)	道内各所の社会関係資本の地域特 性を分析する視角研究の中間報告。
2. 「“若者と地域のつ ながり”に関する調 査・報告書」	共著	平成27年3月	北海道開発協会・開発調 査総合研究所・ 北海道ソーシャルキャ ピタル研究会 (共同執筆のため頁の 抽出不可能)	道内の高校10校の生徒を対象に 実施した、地域の高校生の意識調査 の結果報告書。
3. 平成29年度札幌市オ レンジリボン講演会 記録集	共著	平成30年2月	札幌市子ども未来局児 童相談所	児童虐待への取り組みについて、 家族社会学の立場から提言している
4. 「学校・家庭・地域 が相互に協力し、地域 全体で学びを展開し ていく教育体制の構 築に向けて」	共著	平成30年3月	北海道教育厅	北海道社会教育委員の会議の議長 として、「子どもも大人も学び合い、 育ち合うことができる地域をどのよ うに形成するか」について2年間の審 議をまとめ、提言した。
5. 「若者の『地域』志 向とソーシャル・キャ ピタル」書評リプライ	単著	平成30年6月	北海道社会学会「現代社 会学研究」VOL. 31/2018	新藤慶氏による「若者の『地域』 志向とソーシャル・キャピタル」書 評へのリプライ。
6. 「多世代の紐帯」と しての祖父母世代 - スウェーデンにおけ る離婚・再婚家庭に関 する調査から -	共著	平成30年7月	名寄市立大学	平成27～30年度日本学術振興会学 術研究助成基金助成金による「離 婚・再婚家庭への世代間支援: 「多 世代の紐帯」としての祖父母に関す る実証的研究」のスウェーデン調査 報告書である。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (報告書) 7. 「国際都市化と相互理解」特集に寄せて	単著	2019年6月	北海道社会学会「現代社会学研究」VOL. 32/2019	北海道社会学会大会のシンポジウムについて、主旨と意義および発展的な射程の可能性について検討した。
8. 「北海道における外国人材の現状と課題」	単著	2020年3月	(財)北海道開発協会開発研究所「北海道の外国人材に関する報告書」	北海道における外国人材、特に技能実習生の現状と課題について、調査計画とともに実証的分析を行った。
9. 「序章」「第5章 共生社会の構築に向けて」	単著	2021年3月	(財)北海道開発協会開発研究所「北海道における外国人材も暮らしやすい地域社会づくりに向けて」	3年間の道内調査の成果をまとめ、北海道の地域社会の持続可能性のために必要な外国人材の受入れ環境の取組みについて、現状、課題、提言を執筆した。
10. 令和4年度外国人材の受入れに関する研究会調査報告書	共著	2023年3月	(一財)北海道開発協会	2022年度の追加調査の結果報告書。アンケート設計・実施。ヒアリングの実施の成果報告。
(その他) (事典項目執筆) 1. 生涯学習研究e事典	共著	平成21年12月	e-ラーニングのためのWeb事典 (日本生涯教育学会)	担当項目名:『親の離婚を経験した子どもたち』 5年間の調査結果を基に、親の離婚が与える影響について、子どもたちの視点から分析した結果をまとめた。主なキーワードは、離婚による子どもの社会関係への影響、親子観、家族観、結婚観の意識変容、ファミリー・アイデンティティ概念による家族の境界意識の変化。
〈新聞掲載〉 1. 新聞論評	単著	平成25年2月5日、6月4日、10月1日、11月14日、平成26年1月7日	北海道新聞朝刊	・「生活保護の今」に説得力、TPP踏み込んだ分析を～ ほか4編
2. 新聞書評	単著	平成27年1月11日	北海道新聞社朝刊	・松井久子「何を怖れるーフェミニズムを生きた女たち」書評
3. 新聞書評	単著	平成27年6月	北海道新聞社朝刊	・上野千鶴子対談集「思想をかたちにする/セクシュアリティをことばにする」
4. 業界紙コラム	単著	平成28年3月15日	北海道商店街新報	・「化学変化」を起こす心意気
5. 新聞コラム	単著	平成28年12月16日	朝日新聞朝刊	・「北の文化ー地域のなかの高校生」